

2017年(平成29年)11月2日(木)

# 本音で語り、向上図る

三島市のNPO法人「グラウンドワーク三島(GW三島)」が9月18〜23の6日間、公募に応じた大学生と高校生計15人を率いて韓国を訪問した。バイカモ保全を通じて14年交流を続ける「韓国ナショナルトラスト」と合同で環境保護活動を実践した。GW三島に同行し、国際環境交流の現場を見てきた。

一つだけ細長く不整形な水田。周囲に雑草が生い茂り、水田横の斜面はつる草がはびこる。軍手に鎌を握った

江華島のバイカモ群生地

田や沼地で繁殖していたが、開発や農薬の使用で激減。韓国環境省は1998年に絶滅危惧種に指定した。韓国ナショナルトラストは市民の寄付などで2002年に群生地の水田3015平方メートルを購入し、保全している。08年にラムサール条約の湿地に登録。現地では3〜5月に白い花を咲かせる。

## 海越え続く

## 環境の道

グラウンドワーク三島の挑戦

上

## 「日韓国際環境賞」そろって受賞



バイカモが育つ水田の草刈りをすすめる日韓の学生＝韓国・江華島で

韓国・江華島にあるこの水田がバイカモの群生地だ。バイカモ保全のため農業を使わない水田は雑草もよく育つ。GW三島は、バイカモの仲間であるミシマバイカモの保全活動を1992年の設立当初から続けており、活動を知った韓国ナショナルトラストが2003年に訪れたのが交流の始まりだ。04年に両者は交流協定を締結し、10年にはそろって「日韓国際環境賞」(毎日新聞社・朝鮮日報社)を受賞した。水田での草刈りを終えた都留文科大2年の中里伶さん(20)は「一部でもきれいで良かった」と話す。一方「季節の変わり目」のせいからちょっと汚い。春から夏には渡り

鳥が羽を休め、バイカモが咲き誇ると聞いたのでギャップに驚いた」と漏らした。

水田の現状にはGW三島の渡辺豊博事務局長(67)にも不満がある。「農民との協力はできてますか」「バイカモを示す看板はありますか」「観光客は何人来ますか」。韓国側に疑問を投げかける。この指摘に、韓国ナショナルトラスト江華島バイカモ委員長の崔仲基・仁荷大名養教授(海洋生態学)は「江華島は比較的自然が豊か。住民は開発対象と見る意識が高い。バイカモも春になれば咲く花としか意識してない」と説明する。江華島市民団体ネットワーク元代表の南宮鎬三医師も「儒教意識が強い。農民の間には耕すことが大事で、観光でもうけるのは商人のすることの意識がある」と説明する。課題は残るが、両団体は本音で話し合える間柄を築いた。